

会議録（要点記録）

令和５・６年度 堺市南区政策会議 第４回全体会	
開催日時	令和６年５月１７日(金) 午後６時００分～
開催場所	南区役所 ２０１・２０２ 会議室
出席構成員	公益的活動を行う区民 大島構成員、岸本構成員（職務代理者）、木谷構成員、小林構成員 区長が行う公募に応じた者 北西構成員、鈴木有美構成員、向井構成員 学識経験者その他専門的知識を有する者 河端構成員、橋爪構成員（座長） 区域内で教育・子育て支援に関わる者 三戸口構成員、中辻構成員 区民の生活に密接に関わる民間事業に携わる者 今中構成員、中芝構成員
事務局 管理職員	堺市 中山区長 南区役所 阿加井副区長・松本副区長 杉参事・西参事・仲田総務課長 上山区政企画室長・牧市民課長 川畑自治推進課長・岡野保険年金課長 浅野地域福祉課長・百嶋子育て支援課長 森岡生活援護課長 為野南保健センター所長 檜本南保健センター所次長 市長公室 神田政策企画部先進事業担当課長 泉北ニューデザイン推進室 北口事業推進担当課長 石崎スマートシティ担当課長
議題	１．開会 ２．議題 （１）南区ブランド「M&GREENs」ロゴマークの決定について （２）（第１期）区政策会議の議論を反映した施策・事業の評価検証について （３）南区のウェルビーイングについて ３．閉会

配付資料	・次第 ・配席図 ・資料１ 第２期区政策会議 令和６年度スケジュール ・資料２ 南区ブランド「M&GREENs」ロゴマークの決定について ・資料３－１、３－２、３－３ 堺市南区政策会議 ３つの方向性評価シート ・資料４ 評価シート 評価まとめ ・資料５－１ 南区ウェルビーイング見える化プロジェクトのアンケート調査報告 ・資料５－２ 南区ウェルビーイング像について ・資料５－３ 南区ウェルビーイング見える化プロジェクトのアンケート調査集計結果
------	--

審議状況	開会（午後 6 時 0 0 分） 1. 開会 区政企画室主幹 皆様、お待たせいたしました。定刻になりましたので、ただいまから堺市南区政策会議第 4 回全体会を始めさせていただきます。 皆様におかれましては、何かと御多用のところ、御出席を賜り誠にありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。 なお、本会議は公開とさせていただいております。 また、会議録を作成するに当たって、正確を期するために議事内容を録音させていただいております。また、記録のため、写真撮影をさせていただきます。何とぞ御了承ください。 会議を始めるに当たりまして、構成員の変更がありましたので、御紹介をさせていただきます。 堺市立晴美台中学校校長、上川紀久恵委員に代わりまして、堺市立原山台中学校校長、三戸口聖子委員が新たに就任されました。 三戸口委員、一言御挨拶を頂戴いたしますよう、よろしくお願いいたします。 三戸口構成員 南区の政策会議ということで、本年度、皆様方と一緒に携わらせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。 区政企画室主幹 ありがとうございました。 第 2 期堺市南区政策会議も 2 年目に入っております。構成員の皆様におかれましては、本年度も何とぞよろしくお願いいたします。 なお、本日は、中島構成員、鈴木京子構成員が、所用により欠席しております。 次に、事務局におきまして、本年 4 月の人事異動に伴い変更のありました本市管理職を御紹介させていただきます。 《紹介》 続いて、本日の配付資料の確認をさせていただきます。
------	---

《資料確認》

それでは、以降の進行につきましては、橋爪座長にお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

2. 議題 (1) 南区ブランド「M&GREENs」ロゴマークの決定について

橋爪座長

次第に従いまして、進めてまいりたいと思います。

本日は、議題が3点ございますが、議題に入ります前に、これまでの議論の内容を振り返りたいと思います。

昨年度は、第1期南区政策会議で示されました「3つの方向性の実現」及び「南区ウェルビーイングのイメージの提示」を大きな目標として掲げ、議論を重ねてまいりました。

「3つの方向性の実現」に向けては、対象事業の進捗確認に加えまして、高校生部会を開催し、高校生の意見聴取を行いました。

そのほか、区役所サービスの向上に向けたスマート区役所ロードマップの改定の方向性についても御議論いただきました。

また、「南区のウェルビーイングのイメージの提示」に向けては、国が作成したウェルビーイング指標から南区の特徴を分析し、本年1月から3月にかけて、南区に在住・在勤・在学されている方を対象といたしました本市独自の南区ウェルビーイングアンケートを実施されたところであります。

今年度、この議論をどのように進めていくかについて、まず議事に入ります前に、事務局より説明をお願いいたします。

区政企画室長

資料1を御覧ください。

令和6年度の南区政策会議では、第1期南区政策会議で決定した3つの方向性に基づく事業・施策について、皆様に評価していただき、評価いただいた内容を反映させ、引き続き事業に取り組んでまいります。

また、南区ウェルビーイングの定義に関しましては、本日、南区ウェルビーイング見える化プロジェクトとして、本年1月から3月にかけて実施したアンケート調査の分析結果を報告させていただき、分析結果を基に作成しました南区ウェルビーイング像をお示ししますので、これらについて御議論い

ただきたいと考えております。

10月に開催予定の第5回全体会においては、本日御議論いただいた内容を反映させた南区ウェルビーイング像を改めてお示ししますので、南区ウェルビーイングの定義に向けた御議論を深めていただきたいと考えております。

これらの内容につきましては、未来共創高校生部会や南区選出市議会議員との意見交換会においても御意見をお伺いすることとしております。

そして、第2期南区政策会議での議論内容を、次期堺市南区基本計画の策定につなげていきたいと考えておりますので、皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

説明は以上になります。

橋爪座長

ありがとうございました。

アンケート分析結果等を見ていただきながら、どのような施策・事業を実施することが南区のウェルビーイングにつながるのかなど、ウェルビーイング像の具体的なイメージの議論を進めてまいりたいと思っております。

このウェルビーイングの議論については、次期堺市南区基本計画の策定につながる議論というふうに考えております。活発に御議論を深めていただければと思いますので、引き続きよろしくお願いをいたします。

では、本日予定しております議事に入りたいと思います。

まず、議題の（1）であります南区ブランド「M&GREENs」ロゴマークの決定について、事務局より説明をお願いいたします。

区政企画室長

資料2を御覧ください。

南区役所では、第1期南区政策会議の御意見を踏まえてまとめた「南区ブランド戦略」に基づき、南区の魅力である「みどりとともにかなえる豊かな暮らし」を、南区ブランド「M&GREENs」として表現し、この南区ブランドの確立を目指しています。

南区ブランドの浸透を図るため、本年1月から3月にかけて、「M&GREENs」のロゴマークデザインの公募を実施しました。

公募の結果、219点の応募があり、南区役所職員による1次選考、構成員の皆様による2次選考を経て、資料2に記載のロゴマークを選出いたしま

した。

このロゴマークにつきましては、「笑顔で明るく、みどりとともにかなえる豊かな暮らしを向上する」という意味が込められており、「M&GREENs」の「M」と「G」の形を使い、「M」の部分は笑顔で明るい未来、「G」の部分はガッツポーズをしているような形で、豊かな暮らし等を向上させていくということを表しています。

また、新芽は、今後の新しい暮らしや自然を表しています。

採用作品に関して、構成員の皆様からは、年代や性別を問わず幅広く好まれるデザインである、南区の自然のみならず市民の心豊かな暮らしを想像させるなどの評価をいただくことができました。

なお、同一または類似する先願先登録商標がないことを確認し、採用作品のデザインについて商標権を出願しているところです。

今回決定したロゴマークについては、3つの方向性に基づく取組をはじめ、南区ブランドの確立に向けた取組に広く活用するとともに、行政だけでなく、区内民間企業等にも広く活用していただき、南区全体で南区ブランドを発信することを想定しております。

加えて、区民等から活用方法についての意見聴取を行うなど、ロゴマークの活用と並行して効果的な活用方法の検討も進めていく予定です。

今後のスケジュールとしましては、5月下旬に報道提供や南区ホームページ等での公表、6月以降にロゴマークの使用基準を公表し、使用届出の受付を開始する予定としております。

改めまして、構成員の皆様の御意見を反映し、選出した当該ロゴマークについて、本日の会議にて正式決定とさせていただきます。

説明は以上になります。

橋爪座長

ありがとうございました。

いろいろ御意見・御質問もあろうかと思いますが、本日は、議題3つ全て説明の後に、まとめて全般に御意見をいただきたいと思いますので、先に進めさせていただきます。

では、続きまして、議題の2つ目、（第1期）区政策会議の議論を反映した施策・事業の評価検証について、事務局より説明をお願いいたします。

2. 議題 （2）（第1期）区政策会議の議論を反映した施策・事業の評価

検証について

自治推進課長

南区独自の防災力向上モデルとして、令和５年度に実施した３つの事業の評価検証について御説明いたします。

１点目、自主防災組織連絡会についてです。

各校区の自主防災組織の連携や情報交換の場を設けることで、各校区の取組を相互に参考にし合い、南区防災力の向上を図ることを目的に、９月と２月に連絡会を実施しました。

自治連合協議会に加盟していない校区も含め、南区全２０校区の自主防災組織の実務者が参加され、情報共有や意見交換を行いました。

地区防災計画についてのグループディスカッションでは、策定に向けた前向きな意見が出されました。連絡会につきましては、令和６年度も継続して実施してまいります。

続いて、２点目です。小学生防災リーダー養成講座についてです。

子どもの頃から防災に興味を持ち、将来、地区防災の担い手となる人材を養成し、各校区で活躍してもらうことを目的に、防災の基礎知識を学ぶ防災オリエンテーションの実施と、災害による避難時の疑似体験をしていただくということで、防災デイキャンプを実施しました。

８月に実施した防災オリエンテーションでは、参加した児童やその保護者のほか、南区の複数の小学校から教員が見学に来られており、小学校での防災授業につながるケースも出始めました。

三原台中学校では、南区役所のバックアップの下、校区の健全育成協議会が中心となり、生徒約６００名を対象に防災授業を実施しました。

また、防災デイキャンプに参加した児童が校区の自主防災訓練で役割を与えられ、生き生きと活動している姿を見たときは、本当にとっても印象的でした。

同事業は、今年度も継続して実施することと、それに加えて小・中学校への防災授業の実施を推進し、防災意識の醸成に寄与していこうと思っております。

続いて、３点目、防災士養成プログラムについてです。

地域防災を担う人材を育成するとともに、自助・共助の意識の醸成につなげることを目的として、防災士養成プログラムを実施しました。

自治連合協議会に加盟していない校区も含め、南区全２０校区に募集を

かけ、１８校区からの参加があり、新たに３８名の方が防災士試験に合格されました。

本事業は、防災士資格を取得し、資格取得後に防災リーダーとして地域防災に関わっていただくことが重要であると考え、今年度は昨年度の受講者を対象にスキルアップ研修と校区自主防災活動への参画を促し、参加状況の確認などの効果検証を行ってまいります。

また、いただいた御意見も踏まえまして、南区内の防災士の方に向けた研修も検討していきたいと考えております。

今後も、自治会の加入・未加入にかかわらず、引き続き自助・共助の重要性を啓発し、共助の輪を広げ、誰一人取り残さない安全・安心な未来を共創してまいります。

以上となります。

西参事

子育て・教育、健康長寿などにおける南区ウェルビーイング総合プロジェクトの評価検証について、説明させていただきます。

まず、評価指標を御覧ください。

南保健センターで実施しています個別健康相談の件数については、新型コロナウイルス感染症の５類移行で訪問や面接が増加したこともあり、実績値が目標値を上回りました。

また、みなみ健活キャラバンでの１８歳から６４歳以下の個別健康相談の割合についても、実績値が目標値を上回ることができました。

子育て支援課で実施しています南区子どもウェルビーイングシステム事業でも、２つの評価指標ともに目標値を達成することができました。

さらに、子育て、健康長寿に係るプロジェクト・事業・サービス等についても、数を伸ばすことができました。

最後の特定健診受診率につきましては、３１．３％で、目標値に達成していませんが、堺市全体が２９．４％であり、７つの区の中では高い状況となっております。

次に、多面的評価を御覧ください。

共創性については、SENBOKUスマートコンソーシアム企業等や、学校、こども園、地域の支援者など、各事業において関係機関と共に連携して実施しました。

妥当性については、公民連携や様々なプログラムの実施などの多様な取組

により、子どもたちの自己肯定感の向上をはじめ目標達成に寄与することができました。

効率性については、幅広い世代の来場者が見込まれるイベントにて健活キャラバンを展開することにより、保健センター事業で出会う機会の少ない若い層へ効率的に健康の啓発ができました。

子育て事業においても、学校、こども園、地域の支援者等と連携して実施することで、区役所が単独で行うよりも効果的に実施できました。

以上のことから、総合評価としましては、令和5年度におきましては、目標達成に向けて着実な取組ができたと考えております。

以上です。

区政企画室長

南区ブランド戦略の令和5年度に実施した事業の評価検証について御説明いたします。

資料3-3を御覧ください。

評価指標の1点目、南区ブランドのロゴマークの活用についてです。

議題1で説明しましたロゴマークを活用する事業になります。

活用開始は今年度からとなるため、令和5年度実績値はございません。

今年度は、ロゴマークの認知度10%、民間でのロゴマークの活用団体数3を目標に、効果的な活用方法を検討してまいります。

続いて、2点目、みなみ・みどりのわくわく教室についてです。

農家や保育園、幼稚園の御協力の下、目標である2園で体験プログラムを実施することができ、アンケート結果においても目標値を上回る評価をいただくことができました。

今後は、多くの園で実施できるよう、民間企業の協力などにより事業の仕組み化を検討し、効率性を高めながら事業を継続していきたいと考えています。

最後に、3点目、南区ブランド専用ホームページの活用についてです。

1つ目の指標、閲覧数の前年度比、増加率については、専用ホームページを令和5年度に作成したため、前年度比の実績はございません。

2つ目の指標、掲載項目数については、目標どおり、区内の緑空間の紹介を中心とした10項目を掲載することができました。

項目数を増やすことに加え、情報更新の頻度も意識し、発信力を高め、閲覧数前年度比10%増を毎年度の目標として取り組んでまいります。

各事業に係る評価指標の目標を達成させ、最終的な目標である人口流入定着の実現につなげられるよう、南区ブランドの確立を目指してまいります。

説明は以上になります。

橋爪座長

ありがとうございます。

ただいまの説明に関しまして、事前に評価シートを皆様にお送りしております、評価いただいているかと思えます。皆様の評価の総合的な評価につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

区政企画室長

資料4を御覧ください。

先日、本日の会議開催に先立ちまして、構成員の皆様に事前に評価をいただきました内容について御報告いたします。

改めまして、構成員の皆様におかれましては、お忙しい中、事業評価に御協力いただき、ありがとうございました。

それでは、まず南区独自の防災力向上モデルについて御報告いたします。

一部、「あまり評価できない」との評価もあったものの、構成員の93%の方からは「非常に評価できる」または「評価できる」との肯定的な評価をいただくことができました。

御意見の中には、自治連合協議会への加入・未加入にかかわらず、誰一人取り残さない防災の取組について検討する必要があるといった課題面での御意見もございましたが、大多数は昨年度の事業実績に対して肯定的な御意見であり、資料に記載しておりますとおり、今後のさらなる取組を期待するお声を多数いただくことができました。

続いて、子育て・教育、健康長寿などにおける南区ウェルビーイング総合プロジェクトについてです。

構成員の皆様全員から「非常に評価できる」または「評価できる」との肯定的な評価をいただくことができました。

健活キャラバンに関しては、若い世代に向けたアプローチに関する御意見や、啓発活動により頭で理解するだけではなく実践して体力を維持することがとても大切であるといった、今後のさらなる施策の充実にに向けた御提案をいただきました。

また、特定健康診断受診率については、達成できなかった理由や課題を抽

出し、受診率のアップにつなげていただきたいとの御意見をいただきました。

最後に、南区ブランド戦略についてです。

こちらの方向性についても、構成員の皆様全員から「非常に評価できる」または「評価できる」との肯定的な評価をいただくことができました。

なお、構成員の皆様からは、ロゴマークの活用に関する御意見、「みどり」とともにかなえる豊かなくらしを実感するための農体験以外の取組、専用ホームページの発信方法などについて御提案をいただきました。

それぞれの取組に対して御提案いただいた内容につきましては、今後の事業等へ反映し、事業を進めてまいりたいと考えております。

説明は以上になります。

橋爪座長

ありがとうございます。

皆様に評価いただいた内容につきましては、引き続き施策・事業に反映していくとの説明でございました。

また、この整理の仕方で、皆さんの御意見が十分記載されているかどうかも含めまして、後ほど、この件に関しましてまとめて時間を取りたいと思いますので、御質問、あるいは御意見がありましたら、そのときにお願いいたします。

では、議題の3つ目に関しまして、先に説明をお願いいたします。南区のウェルビーイングについて、事務局よりお願いいたします。

2. 議題 (3) 南区のウェルビーイングについて

政策企画部先進事業担当課長

資料5-1、南区ウェルビーイング見える化プロジェクトのアンケート調査結果の概要について、御説明させていただきます。

まず、1ページを御覧ください。

こちらは、調査目的の概要になります。デジタル庁が令和5年5月に実施した全国8万5,000人を対象としたウェルビーイング調査では、堺市南区の回答者数は196名で、50代以上の方の回答が多い状況でした。そのため、若い層を含めた各世代の意見を収集して課題を深掘りし、南区の課題やウェルビーイング像を可視化・分析するために、堺市、大阪公立大学、N

	TT西日本が連携してアンケート調査を行いました。 調査概要は、資料に記載のとおりで、アンケートの集計結果は、資料５－３のとおりとなります。 次に、２ページ、回答者の属性を御覧ください。 今回の調査では、５９３件の回答数を得ることができました。統計学上の話になりますが、令和５年１２月時点の南区の全人口である１３万１，８４６人の母集団に対し、「９５％の信頼度で南区全人口の意見を代表している」と言える有効なサンプル数は３８３人以上であるため、今回の回答数は調査結果として有効であると言えます。 また、資料、赤色の破線で囲んでおりますが、４０代以下の世代の回答数を確保できておりまして、プロジェクトの目的の一つでもあった若い人たちの意見を多く取り入れるという目標は、一定、達成できたものと考えております。 続きまして、３ページ、世代区分を御覧ください。 若い世代の意見を聞くということも含めた調査目的を踏まえまして、回答者を３つの世代、「４０代以下、単身・夫婦のみ」と「４０代以下、子育て中」「５０代以上」に区分した比較を用いて、暮らしの満足度を次のページから分析しております。 次のページを御覧ください。 アンケートの問い１０、「南区での暮らしに満足されていますか」と問い１１、資料左下にも１５項目を書いておりますが、「各項目について南区での満足度を教えてください」という回答を基に、各項目の満足度と暮らしの満足度への影響度の相関分析を行いました。 資料右側、４つの領域に分けている図がありますけれども、右上、「強化・維持」と書いております青色の部分、こちらは各項目の満足度が高く、かつ、暮らしの満足度への影響が大きいと考えられており、ここは南区の強みと言える部分になります。ここに該当する項目は、引き続き高い満足度を維持するために重点的に取り組む項目となります。 次に、左上、「要改善」と書いてある黄色の網かけしている領域になりますが、こちらは暮らしの満足度への影響度が大きいにもかかわらず、各項目の満足度が低くなっているところになります。ここは南区の改善ポイントであり、今後、満足度を高める施策が必要な項目がこちらに配置されることになります。 続きまして、右下、「様子見」と書いてある緑の領域になります。ここは
--	--

各項目の満足度は高いものの、暮らしへの満足度の影響度は大きくありません。ここに位置する項目は、市民が特に特別に感じていないという認識を持っている場合が多いと考えられています。

最後に、左下、「注意」と書いてある赤色の領域ですが、ここに配置されるものは、暮らしの満足度への影響度、現状の満足度ともに低い項目となっています。この部分の項目を改善しても、あまり暮らしの満足度が上がらない可能性もあるため、場合によっては、優先度を下げてもよい項目となると考えられております。

これらの4つに分けて、次から分析の結果を見ていただきたいと思います。

5ページを御覧ください。

4つの領域に区分するために、縦軸の0.40と横軸の53.0%で線を引いています。

縦軸は、一般的に0.4以上で2つの相関性が認められるということになっておりますので、その目安として、0.40で線を引いております。

横軸の53.0%は、全世代、この表におきまして、平均値が53%となっておりますので、その目安として、53%のところで線を引いております。

全世代で見ますと、南区の強みと言えます、右上の「強化・維持」の領域に、自然、医療機関の充実度、子育て、買物、自身の健康を高める環境の項目があります。

次のページから、先ほどの3つの世代ごとの要因分析を見ていきますが、特に子育ての位置に注目していただければと思います。

次のページ、6ページを御覧ください。

40代以下、单身・夫婦のみの世帯の分析になります。南区の強みとも言える右上の「強化・維持」の領域に属する項目がほとんどなく、赤色で囲んでおりますが、子育ての項目も、左上の「改善」の領域に属しています。

次のページを御覧ください。

こちらは、40代以下、子育て中の分析になります。南区の強みとも言える右上の「強化・維持」に属するものが増えており、子育ても右上の「強化・維持」の領域に移っている形になっております。

次ページ、8ページを御覧ください。

こちらは、50代以上の方を対象にした要因分析になっています。ここでも、子育てが右上の「強化・維持」の領域に属しております。

	これらの3つの世代の分析から考えますと、子育て中、または子育てを経験したであろう50代以上の世代では、子育ての項目が「強化・維持」の領域に属していますので、40代以下、単身・夫婦のみの世代に、南区の子育て環境の魅力が理解されていない可能性があると考えております。 9ページを御覧ください。 こちらは、問い33、「南区を魅力ある街にするためにご意見・ご要望をお聞かせください」という自由記載に対する主な回答を記載しております。 ここでは、世代や交通に関する要望や意見が多い結果となりました。 10ページを御覧ください。 こちらにつきましては、今回のアンケート調査を、「安全・安心」「子育て・教育、健康長寿」「ブランド戦略他」という第1期区政策会議で出た3つの方向性とスマートシティという形で分類して、次のページ以降に各分類のアンケート結果を記載しております。 11ページを御覧ください。 先ほどの「安全・安心」に関するものが、こちらと次のページのものになります。 まず、問い24、「防災訓練に興味があるか」ですが、40代以下の層は50代以上に比べ参加率は低くなっています。一方で、「興味がある」という回答も4割前後あるような状況となりました。 12ページを御覧ください。 問い25、「防犯対策で最も強化してほしい取組み」になります。世代共通で、「防犯カメラ」と「防犯灯」の増設が多い結果となりました。 13ページを御覧ください。 問い18、「子育てしやすい環境に必要なもの」になります。ここからは、「子育て・教育、健康長寿」に関するものが3項目続きます。 ここでは、40代以下、単身・夫婦のみの世代は「治安がいい」というものが最も多くなり、先ほど、子育ての魅力があまり伝わっていないと思われた単身・夫婦のみが、この「治安がいい」というものを求めておられますので、この辺りの強化が必要だと思っております。 次のページ、14ページを御覧ください。 問い21、「健康維持のために何が必要か」になります。世代共通で、「身体活動・運動」「栄養・食生活」「健診・検診」の順に多くなりました。 15ページを御覧ください。
--	---

問い22、「健康に関して利用しているアプリ」になります。40代以下の層は「利用していない」という方も多くなっておりませんが、一方で、50代以上の方は、多くが何かしらのアプリを使っていることが分かりました。

16ページを御覧ください。

問い13、「最も落胆したこと」、問い16、「最も感動したこと」になります。

ここからは、「ブランド戦略他」に関連するものが3項目続きます。

まず、落胆体験では「運賃が高い」、感動体験は「自然が豊か」が世代共通で多くなっています。

また、感動体験で「緑道が魅力的である」と回答した方が多く、緑道が南区の強みである一方、50代以上の落胆体験で「夜の緑道が怖い」と回答する方も一定数おりました。

17ページを御覧ください。

問い29、「幸せに必要なもの」になります。世代全体で「身体の健康」が幸せに必要なものとして最も多くなっております。40代以下の層では、「社会的地位・立場」と「近隣住民との交流」を幸せに必要なものと捉えていない方が多くなっております。

次のページを御覧ください。

問い27、「生活するうえで、便利になると思うサービス」になります。ここからは、スマートシティに関連するものが2項目続きます。

こちらでは、世代全体で「スマート街路灯」「健康アプリ」「スマート区役所」の順に多い結果となりました。

19ページ、最後のページを御覧ください。

問い28、「生活するうえで届けてほしい地域の情報」になります。40代以下の層は、「カフェなどおいしい飲食店の情報」と「商店・スーパー等のお買い得情報」が多い結果となりました。

一方で、50代以上では、「参加可能な文化・スポーツ・健康・趣味などの講座情報」が多くなりました。

資料5-1の説明については、以上となります。

杉参事

資料5-2、南区ウェルビーイング像について説明をいたします。

先ほどの調査結果から、「安全・安心」「子育て・教育、健康長寿」「スマートシティ」「その他」の4つに分類をさせていただきました。

	図の中で、一重丸、二重丸、あと黒の塗り潰してある丸の３種類がありますが、これにつきましては、資料５－１の５ページ、要因分析の全世代、この項目を記号で表記しているというものになっております。 ここの資料５－１の５ページの右上部分が「満足度が高い、影響度が高い」、いわゆる「強化・維持」の領域になっておりますので、今回の資料５－２のこちらの図では、該当する項目は二重丸で表記をさせていただいております。 同じく、資料５－１の５ページの右下部分につきましては、「満足度が高い、影響度が低い」で「様子見」の領域になりますので、資料５－２では一重丸で表記させていただいております。 同じく、資料５－１の５ページの左上部分は、「満足度が低い、影響度が高い」で「要改善」の領域となりますので、資料５－２では、黒塗りに塗り潰した丸で表記させていただいております。 なお、資料５－１、５ページの左下の部分につきましては、「満足度が低い、影響度が低い」で「注意」の項目になっておりますが、ウェルビーイングへの相関性が低いということから、図の中には表しておりません。 また、図の中の右を向いている矢印があるかと思うんですが、こちらは暮らしの満足度の要因から考えられる因子を列挙させていただいております。 こちらの「安全・安心」「子育て・教育、健康長寿」「スマートシティ」「その他」の４項目から成るウェルビーイングの因子というのは、ちょうどこの図の真ん中のところにある、南区が掲げるブランド戦略により高められるというふうに考えております。 今回の調査により明らかになったことを、次期堺市南区基本計画や今後の施策・事業に反映し、南区のウェルビーイング向上につなげていきたいと考えております。 また、今回の調査結果につきましては、資料５－１、５ページ、要因分析（全世代）において、自然、医療機関の充実度、子育て、買物、自身の健康を高める環境は、満足度・影響度ともに高く、安心して暮らせる環境、教育については、影響度は０．４を下回るものの満足度が高いとの結果が出ております。 このことにつきましては、これまで南区が第１期区政策会議で議論し、取り組んできました「安全・安心」「子育て・教育、健康長寿」「ブランド戦略」、この３つの方向性と合致した結果が出たというふうに認識をしております。
--	---

今後は、この結果を踏まえまして、第1期区政策会議での方向性を大きく変えるのではなく、強化していくという方向で考えていきたいと考えております。

以上が、ウェルビーイング像についての説明になります。

橋爪座長

ありがとうございました。

あと、資料5-3にアンケートの詳細がございます。また、お時間があるときに御覧ください。

第1期南区政策会議で示されました3つの方向性、「安全・安心」「子育て・教育、健康長寿」「ブランド戦略」という3つの方向性に関しまして、おおよそ満足度も高く、暮らしの満足度への影響度も高い項目であるという結果が出たという説明であったかと思います。

区役所としましては、この項目を南区の強みとして伸ばしていきたいということで御説明いただきました。

加えて、スマートシティによりまして、利便性を高めましようという説明がありました。

利便性とか健康に関する意識を高めましようということが記載されているかと思います。

以上、本日の議題の資料の説明をいただきました。1から3まで全般に関しまして、御意見・御質問等々がありましたら、お願いをいたします。いかがでしょうか。どなたからでも結構です。

お願いします。

向井構成員

最後の南区ウェルビーイング像について、アンケートの結果をずっと落とし込んでいったら、家族とのつながりはあるんですけど、地域とのつながりという言葉がもうなくなってしまっているんです。

これは、もうはっきり世の中の方向が、こういう方向になっているという、このアンケートの中に50代以上の人もいるんですけども、例えば自治会活動のポジションがもう全くこの意識の中にはなくなってきているんです。

防災対策も、これから進めていかないといけない。世代間のギャップみたいなところを、じゃあどういうふうに埋めていったらいいか。

今、デジタルに託せる部分が多くなっていますが、震災などの際には電力が止まってしまって、防災をアナログでやらなきゃいけないというところがギャップとして非常に明確に見えてきていて、自治会活動をやっているとしても、どんどん自治会に加盟しないところが増えてきている。

そういった状況をふまえ、この3つの方向性を掲げる中に防災に向けた取組もあるので、今後の自主防災の方向性について、このような意見も取り入れながら考えていかないといけないかなと感じました。

橋爪座長

ありがとうございます。

事務局、いかがでしょうか。

自治推進課長

御意見ありがとうございます。

本当に、今、地域とのつながりというのは確かに減っていつている方向ではあるんですけども、一方で、実は防災を中心として横とのつながりを強化していこうという意識から、自治会加入率が30%ぐらいあったところが、今年いきなり増えたわけではなく二、三年かけながらですが、今年度、六十数%を超えたところもあるんですね。

自治会も高齢化し、役が回ってくることが大変だからということで希薄化していつている一方で、実は、みんなで備えようという意識をしっかりと伝えていくことで加入率が増加したという例も、ここ数年、増えてきているところでございます。

今おっしゃっていただいたように、みんなで備えていくという意識の伝え方の部分で工夫が必要であることから、我々が今やっている事業につきましても、連合自治会への加入・未加入にかかわらず啓発し、また小・中学生のところからも啓発していくことで、共助の大切さを皆さんに分かってもらいながら、広く伝えていくことが重要だと思っております。

ありがとうございます。

橋爪座長

現代では人と人は直接会うのではなくデバイス経由でつながっていることが多いかと思うので、今の御意見も配慮いただければと思っております。

ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

木谷構成員

医療機関と、それと買物の、この部分で、ちょっと満足度が非常に高くなっているんですが、校区によっては医療機関がないところや買物をするスーパーがないところもあり、校区ごとに事情が違うと思うんですね。その辺の分析がどうなるのか、ちょっと気になるところです。

橋爪座長

事務局、いかがでしょうか。

区政企画室長

今回のアンケートでは、細かい校区ごとのアンケートというのは取れておりませんので、今後、より深掘りをするようなワークショップ等も今年度実施していければと検討しています。御指摘いただいた視点も取り入れながら、事業に反映させていくというふうに考えております。

橋爪座長

今回のアンケートは、校区とクロス集計しているわけではないんですね。

区政企画室長

そうですね、校区ごとの属性というのは聞いていないので、その結果は出ておりません。

橋爪座長

課題があると記載されたご意見から、どこの校区かというのは分かるのでしょうか。

区政企画室長

校区ごとの属性は取っておりませんので、校区ごとでの結果がどうだったかというのは、今回のアンケートでは分かりません。

橋爪座長

個人情報とかにもなろうかということで、多分、住まいとか背景を明らかにしていないということだと思いますが。

大島構成員

木谷さんと御一緒なんですけどね、買物が二重丸になっていますけど、この16ページでは、落胆体験で「日常の買物が不便である」と書いているにもかかわらず、こっちで二重丸というのは、どういうことなのでしょう。

多分、どこの校区もスーパーが閉鎖してきていると思うんです。若い人は車で不自由なくあちこちへ行けても、高齢者になってくると、その辺は自由に行けなくなってくると思うのですが。

区政企画室長

買物に関しても、満足しているかどうかというふうに大きく聞いていますので、おっしゃられたように、車での移動が簡単にできる世代の方というのは、やっぱり買物に関しても特に不満は感じていないというところで、全体として、こういった高い数字が出ているのかなというふうに考えています。

ただ、おっしゃっていただいたように、移動手段を持たれていない方では買物に関して低い評価というのが出ていて、フリー記述のところで、そういうところに不便さを感じているというふうに書かれているのかなと思います。校區別で見るのと同じように、年代別でのクロス集計というものも今後必要かなと思いますので、その点は、またしっかり考えていきたいと思っております。

橋爪座長

よろしくお願いします。

では、ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

鈴木有美構成員

ウェルビーイングというものの自体は、多様な幸せを達しているものだと思うんですけど、何かこのウェルビーイング像の中でうまく過ごせなかった、例えば学校に行けなかったとか、結婚できなかった、子どもができなかったとか、家族が別れてしまったとか、何かそういった家庭の方もたくさんいて、実際、南区で生活している方でもすごく多くて、何かこのブランド戦

略と生活が乖離していると、そういう方がこぼれ落ちたりとかというところをちょっと感じてしまうので、そういったところに配慮というか、それであっても、独り親であっても幸せを感じられるようなブランドに変えていけたらよいのではないかと思います。そういう意味で、この「みどり豊か」という特徴はすごく強みであると思っていて、何か自然の中で、そういったちょっと学校に行きにくかったけど、自然の中で何か気持ちを癒やして、何か育ちに助けにあったとか、子どもと触れ合う機会がない単身の世帯であっても、そういった自然の中で、何かこういう政策の中に関わることがあって、子どもたちと触れ合ってすごく幸せだなとかを感じられるような、ちょっとこの絵姿の中からちょっと漏れやすいような方々が、このみどり豊かな自然の部分であったり、またはスマートシティの部分であったりとか、そういった方たちが得意なところを力を発揮するような政策みたいなものが、この中に具体的に入っていたりすると、何か全体として、子育てや長寿とかというところに漏れている方々の活躍の場みたいなのがそこに入ってきて、すごく何か多様性のある政策になるんじゃないのかなと思います。それがひいてはこの地域としてつながっていったりとか、あの人、結婚していないけど怪しくないよみたいな、何かこう地域の防犯とか防災とかに緩やかにつながっていくような感じがあるなと思うので、そうじゃない方々をどういうふうに政策の中に入っていくような活躍の場みたいなものを入れてもらえるような、特に不登校で学校に行けなくて、進路や結婚とかも考えられないような方々やその家族たちにとって、何かいいウェルビーイングの姿があるといいかなと思いました。

橋爪座長

ありがとうございます。

ウェルビーイングという考え方は、多数決で決めていくものではなくて、誰もが幸せな地域を目指そうというのがもともとの考え方だと思います。多い意見に基づいて書く部分も当然整理上はあるんですけど、そうではないご意見も、現在の案にプラスできればいいんじゃないかと思います。また事務局で検討いただければと思います。

区政企画室長

資料５－２につきましては、アンケート結果を踏まえて、第一段階としてイメージとしてつくらせていただいているものになりますので、今日の御意

見を踏まえて、次回の会議で、またお示しさせていただけたらなと思っております。御意見ありがとうございます。

橋爪座長

ありがとうございます。

では、ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

今中構成員

すごく興味深い資料で、ありがとうございます。

よくよく見ると、40代以下で、働く場、仕事の優先順位が結構低いようで、私たちとしては働く場が泉北に少ないので誘致しないといけないなということで躍起になっていたんですけど、そこはあまり求められていないのかなというふうに感じました。

あと、最も落胆したところで各世代とも全部運賃が高いというふうにありまして、おっしゃるとおりかと思うんですけども、ちなみに来年から泉北高速鉄道が合併するため定期券は劇的に金額が下がりますので、ぜひ御期待くださいませ。よろしく願いいたします。

橋爪座長

ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

河端構成員

今、第1期南区のウェルビーイング像ということで、まだまだたたき台の状況かなというふうに思っています。

防災とか、いろいろとあるんですけども、やっぱりすごく大事なことは、やっぱり個人の体力なんですよね。これはもう日を追うごとに落ちていくわけで、頭で幾ら理解していても、確実に落ちていきます。普通の生活をしていたら、確実に落ちていきます。

そういったことをどういうふうに改善していくのかということをやはり理解することが重要で、健康アプリとかもありますけれども、僕もちょっと内容は分からないんですがただ1万歩を歩いていても効果がないということは

もう世界的に分かっている話で、もう少し何か科学的根拠に基づいたプロジェクトを考えていかないといけないかなというふうに思っています。

全てのことの原点として体力はものすごく大事なものなんですけれども、意外と何とかなるだろうと思っている方が大変多くて、その辺のところをもうちょっと浮き彫りにしていくと、ウェルビーイングがうれしくなるところに固められるんじゃないかなと思うんです。

今日、ちょっと皆さんに（冊子を）お渡ししておりまして、またお時間があるときに御参考いただけたらいいと思うんですけれども、その辺のことも詳しく書いているのと、あと私どもが、もう20年ぐらいになりますけれども、信州大学の能勢先生たちとずっとやっている運動型の健康支援事業があります。世界でも活用されていて非常にバックグラウンドがしっかりしているので、こういうものも考えていただけると面白いんじゃないかなと思います。

確実に医療費は下がります。確実に体力は維持できます。高齢者の体力というのが維持できることが若い人の向上と同じ意味を持ちますので、やはり歩けるという力をできるだけ長く保ちたいんじゃないかなと。

そういったことも踏まえながら、先ほどいろいろと買物の話とかが出てきましたけれども、移動の問題というのは、やっぱり各コミュニティによって違うと思いますので、それをもうちょっと精査していくと、いいアイデアになるんじゃないかなというふうに思います。

やはり、これからのキーワードは、やっぱり健康と移動と、あと働き方というのが、多分、世界的に重要なところだと思うんですけれども、そのうちの一つとして、やはりバックグラウンドをしっかり持つということが重要ではないかなと思います。

また、1つだけ、文化・芸術が低いんですけれども、これをもうちょっと何か活用できると、何かコミュニティでもまた活用できるんじゃないかと思っています。

たまたま私が今滋賀県の長浜というところに住んでおりまして、まちが、400年以上前、秀吉がやった子ども歌舞伎がありまして、いまだにその取組があるわけですね。

それで、日頃やんちゃな大人も祭りのときになると人が変わるんですよ。私もその人間ではないので、初めて来たときにすごく感じたのは、まちが子どもを育てていると、そういうことをものすごく痛烈に感じておりまして、新しくできたまちですけれども、何かそういったアイデアみたいなもの

が見つかるといいのではないかなというふうに思いながら、この結果を見ておりました。

コメントですけれども、以上でございます。

橋爪座長

ありがとうございます。

文化・歴史系がないというのは、何か事務局、いかがでしょうか。項目になかっただけですか。

杉参事

今回、文化・芸術というのが、この資料5ページの全世代のところの要因分析のところ左下のほうに来ているということで、満足度も低くて影響度も低いという結果が出ております。

ここにつきましては、これをどう高めていくかということに関しては、個々の施策の中で対応させていただくということになってくるかと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

橋爪座長

では、お願ひします。

中芝構成員

今回のアンケート結果の中で、こちらの資料5-1の15ページのところですかね、Q22、「健康に関して利用しているアプリ」のところ、事務局の方からも御説明がございましたけれども、50代以上の方でもアプリを既に利用している方の割合が高く、改めてこの40代以下、単身・夫婦のみと40代以下、子育て中、50代以上でのこのグラフを見てみますと、母数と比較すると、かなり本当にたくさんの方が利用しているんだなと思ひました。ちょっと見方が間違っていたら申し訳ないんですけども、資料5-3の15ページに同じようにQ22の分析が載っているんですけども、資料5-3のほうでは、全体でアプリを利用していない方が109名という数字があつて、資料5-1のほうに戻つて、「利用していない」が登場するのが40代以下、単身と子育て中のみなんですけれども、それを両方とも足しても、それで95ぐらいですかね、18と77で95名。なので、50代以上の314名のうち14名しか利用していない方がいないということですよ

い確率だなと思います。本当にほとんどの方が何らかの健康アプリを利用しているんだなというふうに読めました。

それと、健康アプリを利用しているということは、恐らくこれはスマホで電話とかメールだけじゃなくて、何らかのアプリを使って利用しているということで、南区において、スマホを使う素地が高齢者の方の方向に広がっているんだなと思いました。

今度は、飛んで申し訳ないですけども、資料５－３のほうの後ろのＱ２８のほうで、今後、堺市では、地域の情報をサービスに使ったアプリとかを検討されていく中だと思うんですけども、ぜひこの５０代以上の方が、これだけもうかなりの方がアプリを使われる環境にあるという中なので、ぜひ４０代以下の方に向けてもそうですけれども、５０代以上の方に訴求がすぐにできるアプリとかサービスとかをリーチしていくことを考えてあげれば、結構、スマートシティも含めまして、リテラシーとか環境とかにうまく解析が広がるんじゃないかと思いましたので、コメントが半分ですけど、言わせていただきました。

橋爪座長

ありがとうございます。
どうぞ。

大島構成員

このアプリに関して、ほとんど前は「アスマイル」だったんですけど、この頃、「へるすまーと」が広がってきています。うちの主人も利用しているんですけども、１万歩を歩かないと、もう夜になっているのに歩数が足りないから歩いてくると言ったり、楽しんでアプリを使っている様子で、そのような方が近所でも増えてきています。１万歩を歩かないと上に上がっていけない仕組みらしいのですが、何で１万歩なのかなと思うんです。一体何歩がいいんでしょうか。

河端構成員

運動強度が大事なんです。

もう厚労省も、今、１万歩は否定し始めていますね、いよいよ。

つまり何かと言うと、運動の強さが重要なんですね。１万歩を歩いていても、持続的運動量って上がらない。もう、これはもうはっきりしているんで

すね。

じゃあ運動を強めるにはどうすればいいかというと、早歩きでいいでしょうっていう話なんですよ。

ただし、そのときにすごく大事なのは、強度の設定なんですよ、これで全てが決まるんですよ。

だから、何げなく自分でやっても、実はうまくいく人といかない人が出てきてしまう。

今、1万歩をやらなくたって1万歩に追われちゃっている生活があって、よく見ていると、走っている人もそうですよね、何か悲壮感が漂って走っていて、本来、運動は自分が楽しいからやるわけであって、だからまだ追われているうちはやらされている話で、トレーニングの奴隷になっているようなものですよね。

だけれども、将来の自分というのは、もう見えるわけですから、そのときに効率よく何をするかというのがすごく大事で、そこを勘違いしている者が今は大変多いです。

だから、やった満足だけで、結果はどうなのっていうところを誰も追っかけていないんです。半年後、1年後にどうなったのっていうのを追っかけないと非常に無責任で、これ日本では通用するんですけども、アメリカじゃ通用しないですよ。訴訟して終わりですよ。やったけど効果が出なかったと言ったら、勝つわけですよ。だから、プログラムというのは、向こうは真剣にやっているんですよ。だから、バックグラウンドが大切ですよというのはそこで、日本もそういう時代が来ているんじゃないかなと思っています。

橋爪座長

ありがとうございます。

1万歩を達成すると、何か気持ち的な喜びが、皆さん、スマホに依存して、目標を達成する喜びがあるんですよ。

河端構成員

そうですね、効果があったほうがいいですね。

橋爪座長

効果があるようなスマホにしてもらえるといいかと思います。

河端構成員

それはプログラムですね。

だから、早歩きをすれば歩数も少なくていいし、時間も短くて済むんですよ。

橋爪座長

そういうアプリが欲しいですね。

向井構成員

資料5-2にある南区のウェルビーイング像について、これをちょっとずつ読み返してみると、我々が気がついていることが、大体、この中に含まれているんですね。

このウェルビーイング像を南区の住民にどう新しく見せていくか、このブランド戦略は何が新しく今までとどう違うのかというようなところを、もうちょっと突き詰めていく必要があるのかなと思います。

戦略方針として、シビックプライドの醸成とブランド価値の共創とあるんですけども、シビックプライドというものをどう熟成させていくのか。例えば今ははっきり分かっていることとしては、緑と自然というものがこの右上のポジションにあるわけですが、50代以上の人についてはこの魅力を理解できているので、今度は若い人たちにその緑をもう一度再認識してもらったり、生活の中で緑と関わりを仕掛けていくかという部分を考えていく必要があるかなと思います。また南区のスマートシティやその他も含めたブランド価値というのは何なのかということについて、もう一度、再アンケートを取るか、今まで答えていただいた人に対して、もうちょっと深掘りしていく必要があるかなと思います。

ロゴマークが決まっただけなんじゃないかなならないよう、そこをもうちょっと突き詰めていってほしいと思います。

それともう一つ、先ほどのアプリなんですけれども、必要なアプリって、単純であれば使いやすいと思うんです。

例えばLINEのグループに紹介しても、そこから自分で考えてするというのが、高齢になるほどできない。単純なアプリで、ここを押して、例えばiPhoneの場合でしたら、「ヘルス」のマークが出てきて、その下を見たら、今日、何歩歩きましたというのが出るぐらい簡単であれば確認しやすく、使いやすいのではないかなと思うんです。

また先ほどアプリの話が出てきたんですけれども、自主防災を突き詰めていくと最初に安否確認という言葉が出てくるので、それを簡単に誰でもスマホでできないかと思うんです。

それをアナログでやろうとすると、棟長が階段を上って1階から4階まで確認するわけです。例えば棟長がもう高齢の人でしたら、階段を上るのもしんどい中で安否確認をしないといけなくなります。であれば、もっと簡単にできる人になるか、あるいはデジタルでカバーしていくかになるかと思います。今、避難訓練など防災に関してはアナログの組織である連合自治会を動かしながら広めていかないといけない状況になっていますが、これをデジタルでカバーできないかと思います。

中芝さん、例えば南区だけのものであってもいいと思うんですけれども、安否確認のアプリというものは、簡単にはできないもんですかね。

中芝構成員

今おっしゃったように、まさしく住まれている場所で、市の調査であったり民生委員の方々が訪問する場合もございますけれども、実際、災害が起こると電話や携帯は通じなくなってもアプリであれば何とか届く場合があるということで、勤めている方であれば今勤務中でどこにいますとか、勤務地とか遠隔地で離れている方なども含めて、そういったアプリというものは非常に使いどころかなというふうに考えます。

向井構成員

その辺の情報が、前に一度集まりました実務者連絡会では不足しているんですね。例えば自分は足腰が立てて安全ですよというボードをドアに掲げて、それを発見者が見てこの家は飛ばしていいなと判断する。ですがその隣の家は出ていなかった場合は、この家は要注意であると判断し、チェックすることになります。チェックして回る人にとしてみると、例えば10件回ったうち、その番地など何か固有の情報を押さえておかないと、もし次の余震が来たときにまた安否確認をしに行かないといけないんです。それを繰り返し繰り返しやるのかというところもあるので、その辺がデジタルで出来ないかなと思うんです。

デジタルでカバーできるのか、アナログでやらないといけないのかというところを突き詰めて、どんな対応ができるかななどの話を勉強会のときに共有いただくというようなことが必要かなと思います。せっかくこの3つを掲げ

ているのですから、もうちょっと細かくやっていくとしたら、こういう方向が必要かなというふうな気がしました。

橋爪座長

はい、お願いします。

木谷構成員

高齢者の方はスマホを幾ら持っていても、十分使えるかと言ったらできていないんです。

ですので、防災の関係でアプリを用いて安否確認をしたらという話がでましたが、例えば5階建てのそういう住宅でも、ベランダに印をつけるなどの方法により可視化するというのが一番ノーマルで早いと思います。

何でもアプリとかを使っていくというのは、なかなか危険かなと思いますね、漏れる方が多くなると思います。

小林構成員

すみません、今、方法論の話になっているんですが、アンケートのデータ分析の結果に結構危機感を感じています。

どの世代も、もう自分のことしか考えていないんだなっていうのが明らかな結果だと思っていて、そこは区役所のほうはどのように捉えているのかというのが少し気になりました。

それをつなぐ役割というのは行政がしっかりやっけていかないといけない時代になったのかなっていうのが正直なところでは。

コレクティブ・エフィカシー、集合的効力感という言葉がありまして、共通善のためにみんなが自分の力を発揮しようというのが集合的効力感という言葉の意味なんですけど、防災に興味があり情報も取れるはずなのに地域のことを知ろうとしないの40代以下や、成熟した人間として地域の子どもだったりお孫さんだったりに関心を示さないといけない50代以上が自分の健康と習い事のほうに興味があるという、この結果に正直愕然としているというのが、皆さんのこの情報を聞いていての感想です。

同じ情報源を持っていないことで分断が生まれているということが一つあると思うんですが、やっぱり何らかの形で世代をつないでいくような、それこそ共通善を行政として掲げる必要があるのかなと思います。

そういう意味では、ウェルビーイングという言葉はとても包含してい

と思いますし、特にこの緑道でつないでいくという発想、そこは強みとしてどの世代も捉えていることなので、何かそこを使った多世代での交流や防災の対策などを検討いただけたらと思います。すみません、今、ちょっとすごくショックですぐ浮かばないのでこれぐらいのアイデアしか出てこないんですけど、何かそこに危機感を感じて施策というか、具体的な策を考えていただきたいなと思います。

以上です。

橋爪座長

ありがとうございます。

事務局、いかがでしょうか。

自治推進課長

ありがとうございます。

特に先ほどの防災の話も同じですが、今おっしゃっていただいたとおり、私も世代間をつないでいく必要性を感じております。その中で、御意見にもあった、自治会に加入している、していないにかかわらずという視点に立ち、例えば昨年度、中学校で防災授業を実施したときも、日曜日に実施しているんですね。たまたま雨でできなかったんですけども、日曜参観で保護者も交えて防災運動会をしようという学校も出てきたりしています。そういったところから、裾野を広げていくというところで興味を持っていただくのが重要なと思っています。

全て何もかもデジタルとかアナログでということよりも、本当にみんなが興味を持って裾野を広げていくことにより共助の輪というのは広がっていくのかなというふうに思っていますので、今後御意見を参考にしながら、いろいろと施策を考えていきたいと思っています。

ありがとうございます。

橋爪座長

中山区長。

南区長

まず、このアンケートの結果を見て、第1期で御議論いただいたことが、アンケートという形ですけれどもきっちり裏づけられたのかなと思っています。

	す。 ですので、事務局が冒頭に御説明したとおり、1期を受けて、2期の事業を進めている中で、このアンケートで、やっぱり方向性は間違っていないんだなと感じております。 もう1点、今後、考えていく中で、今回、ウェルビーイング像というものを示させていただいておりますけれども、鈴木委員がおっしゃっていただいたように、お一人お一人というようなところは、当然、いろんな御事情を持っておられるというところの市民の方、区民の方を想定して、我々、最終的に像というものを示していきたいと考えています。 その中で、これらをどうしていくのかというところはあるんですけども、先ほどおっしゃった、まずアンケート自体が「あなたの」という聞き方をしているので、まずやはりその深掘りをどうするのかということで、先ほど室長が申し上げたように、具体的にグループに、何らかの形でもっと深い御意見をいただく、もしくは今度の高校生部会で、高校生の方はこのアンケート結果をどういうふうに見ておられるんだろうというところも御意見をいただきたいと思っています。 我々としては、この結果を踏まえて方向性を示させていただき、具体事業に落としていく際には、おっしゃっていただいているように、アプローチを世代ごと、もしくは属性ごとに変えていかなければいけないと思っております。事業を進めるところで、その周知の仕方や届け方自体も考えていかなければいけないと思っています。 要は、健康が必要な方について、例えば10代の方に届ける中身と30代の方、70代の方に同じものを届けるということやり方自体も抜本的に考えないといけないだろうなということを、はっきり方向性として、手法として見せていただいたのかなと、私自身はアンケートを読んでおります。 今回、いろいろ御意見をいただいておりますけども、最終的にまず大きい方向性としては一人も取り残さないというところで、今回お示した案にどんどん加えていけるようなものって一体何だろうということと、いろんな意見をふまえてそれを来年度、再来年度に少しずつかもしれませんが事業として組み立てていく中で、御意見をまたいただきたいと思っております。 今回で全てにお答えは返せないんですけども、本当にいろいろと御意見をいただきまして、方向性は同じだけれども、アプローチの仕方とか考え方、例えば区民の方にどういうふうに見せるかというところで我々も同じように思っているところがございますので、御一緒に考えさせていただければなと
--	---

思っております。

以上です。

橋爪座長

ありがとうございます。

あと10分ほどございます。ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

北西構成員

ちょっと感想みたいになっちゃうんですけど、まず1つ、高齢者の50代以上の部分で、介護施設とか、遊び・娯楽・外食、学習・習い事等が要改善の欄に入っていることに関してです。これは全体傾向ではないと思うんですけど、例えば一旦介護施設に入ってしまうと、自由が制約されてしまうだとか、退職後の楽しみだとか、そういう面で、いろいろ課題や思うところがあるのかなという印象でして、やはり健康という面でも、身体健康の面はもちろんなんですが、精神健康の面で、50代以上の方とか高齢者の方が活動できるような文化活動の場などをより提供していくことが大事なのかなというふうに思ったり、例えば介護施設の充実の欄で、入居者の方が活動に取り組めるような環境であったり、地域と交流を持てる場をつくっていく必要があるのかなというふうに思いました。

2点目が、特に若者のほうになりまして、個人的な主観が入ってしまうんですが、南区が子育てや高齢者向けのことにについてうたっているのは結構お見かけするんですけど、逆に中高生や大学生向けもことってあんまりないなと生活していて感じる人が多い印象です。

南区に今住んでいる人が住み続けたい、大人になっても住み続けたいと思えるかは、中高生のときの経験が大事じゃないのかなと個人的にすごく思っていて、ちょうど中学は地域活動から小学校よりは離れる段階だし、高校は別の駅に行ったりすることも多く、そのタイミングで自分の地元について振り返るタイミングがあると思うので、そういう地域に住む中高生向けであったりとか、また南区は帝塚山さんだったり、泉北さんだったり、今度は近大さんも来るということで、外から学びに来られる学生もやっぱり多いと思っているので、彼らがただ学びに来るだけじゃなくて、この南区について知ってもらうという環境づくりというのが、一つ、若年層を取り込んで定着してもらうという点で重要なのかなというふうに思いました。

以上です。

向井構成員

何があったら楽しいかな、泉北に。

私の若い頃は、刺激のない、ただ帰ってくるだけの眠りのまちやなと思っていました。朝起きたら鉄道に乗って、そのまま会社へ行って、夜11時、12時近くに帰ってきて、考えたら1年間車に乗る機会もなく、車は1年間で1万キロぐらいしか進まないで、ただ寝に帰っているような状況で、泉北でなくてもいいのではないかなと一回思ったことがあるぐらい、眠りのまちだったんです。若い頃は、そうでした。

今、何が刺激になればいいですか。

北西構成員

そうですね、遊ぶとなると泉北という選択はなくなってしまうというのが一つあります。でもやっぱり住むまちなので、遊びに特化していいものかというのもあるんですけど。でもそういう意味で言うと、遊びの欄に経済的なゆとりの欄がありますが、中学生とかお金がない子どもたちが遊ぶ場として公園が整備されているというのは、すごく重要じゃないかなというふうに個人的には思っています。

あと外から取り込むという面では、彼らは主要駅を絶対に経由するので、駅周辺で何かできることがあったりというのがあれば、何か一つのきっかけというか、南区に関わる足がかりになるんじゃないかなと思います。

橋爪座長

ありがとうございます。

本日は御意見ありがとうございます。

特に、地域のつながりとか、世代のつながりとか、あと防災の見守り等のつながりなど、つながりが重要という点に関して、多くの御意見が出てきたかと思います。あと、交通に関する値段が高いという課題も、ご指摘がありました。

私の意見を申しますと、防災という考え方だけではなくて、減災に加えて、発災後の対応が重要である点を強調しておきたいと思います。災害が起こった後、いかに早く元の状態に戻すのかということを考えた場合に、レジリエンスという発想が重要である。少し前に議論されたレジリエンス都市と

いう概念でも、災害からの回復を考えるには、災害が起こる前の地域のつながりが最大のポイントということが指摘されていました。平時のつながりがあればこそ、発災時にもうまく復興につながるんだという考え方です。

あと発災後の何時間か何日間か、とにかく学校に避難していただいたりというときの過ごし方がいかにあるのかが、各地で共通の課題だと思いますので、その辺りも含めまして、安全・安心は考えていくべきだというふうに思います。

本日、いただいた御意見等を反映させていただきながら、次回、また議論いただければと思います。

この大きな枠組みに関しましては、これではいけないという強い御指摘等はなかったと思いますので、前年度から継続して議論させていただいている3つの方向性とスマートシティ化という枠組みについては、この方向性で進めさせていただければと思っております。

次回、冒頭に説明がございましたスケジュールによりますと、本日いただいた意見と、7月に実施を予定しております高校生部会の意見を踏まえて、改めてこのウェルビーイング像の枠組み等を示されるという予定になっておりますので、また次回、意見交換ができればと思っております。よろしくお願いいたします。

では、本日、以上でございます。

進行を事務局にお返しいたします。

区政企画室主幹

橋爪座長、ありがとうございました。

皆様、本日は長時間にわたり御議論いただき、誠にありがとうございました。

これをもちまして、堺市南区政策会議第4回全体会を終了いたします。

閉会（午後7時34分）